

「かぐや」(SELENE) 搭載 LISM が明らかにする月の南極域の地形地質

Geology of lunar polar region revealed by LISM on KAGUYA - initial results -

春山 純一 [1]; 松永 恒雄 [2]; 大竹 真紀子 [3]; 諸田 智克 [4]; 横田 康弘 [4]; 本田 親寿 [5]; 小川 佳子 [2]; 安部 正真 [4]; 二村 徳宏 [6]; 山路 敦 [7]; 山口 靖 [8]; 浅田 智朗 [9]; 出村 裕英 [10]; 平田 成 [9]; 寺園 淳也 [9]; 岩崎 晃 [11]; 宮本 英昭 [12]; 児玉 信介 [13]; 佐伯 和人 [14]; LISM グループ (春山 純一)[15]

Jun'ichi Haruyama[1]; Tsuneo Matsunaga[2]; Makiko Ohtake[3]; Tomokatsu Morota[4]; Yasuhiro Yokota[4]; Chikatoshi Honda[5]; Yoshiko Ogawa[2]; Masanao Abe[4]; Tokuhiko Nimura[6]; Atsushi Yamaji[7]; Yasushi Yamaguchi[8]; Noriaki Asada[9]; Hirohide Demura[10]; Naru Hirata[9]; Junya Terazono[9]; Akira Iwasaki[11]; Hideaki Miyamoto[12]; Shinsuke Kodama[13]; Kazuto Saiki[14]; Haruyama Jun-ichi LISM Working Group[15]

[1] JAXA/宇宙研; [2] 国環研; [3] ISAS/JAXA; [4] 宇宙研; [5] 宇宙研; [6] 東大・理・地球惑星; [7] 京大・理・地球惑星; [8] 名大; [9] 会津大; [10] 会津大学; [11] 東大・工・航空宇宙; [12] 東大・総合研究博物館; [13] 産総研; [14] 大阪大・理・宇宙地球科学; [15] -

[1] ISAS/JAXA; [2] NIES; [3] ISAS/JAXA; [4] ISAS/JAXA; [5] ISAS; [6] Earth and Planetary Sci., Tokyo Univ; [7] Div. Earth Planet. Sci., Kyoto Univ.; [8] Nagoya Univ.; [9] Univ. of Aizu; [10] Univ. of Aizu; [11] Aeronautics and Astronautics, Tokyo Univ; [12] The University Museum, Univ. Tokyo; [13] AIST; [14] Earth and Space Sci., Osaka Univ.; [15] -

月の極は、低温で揮発性物質が集積していると考えられ科学的にも重要な地域である。また、温度的に安定であり、将来の活動拠点の候補である。「かぐや」(SELENE)には、10 mの水平分解能で立体視する地形カメラ(TC)、可視域5バンド20m、近赤外域4バンド60mの水平分解能によるマルチバンドイメージャ(MI)、可視から近赤外域で連続分光するスペクトルプロファイラ(SP)が搭載されている。これら3機器は、機器を一部共有するなどしており、総称して月面撮像/分光機器(LISM)と総称される。月の極の地形地質の把握はLISMの重要な探査課題である。

LISMは、2007年11月3日に初期チェックアウトを開始し、12月21日に定常観測に入った。最初のサイクルはTCの高緯度定常観測を、続くサイクルはMIの高緯度観測を行っている。この間に、極域のデータは、一部取り残しはあるものの集積された。本講演では、LISMによって得られた極域の地形地質の解析結果について紹介を行う予定である。